

森林資源の現状と 林業活性化に向けた兵庫県を取り組み

主任研究員 大西 康介

森林は水源の涵養^{かんよう}、地球温暖化の防止、木材の生産等の重要な機能を持っており、これを適切に維持、整備、保全していくことが欠かせない。

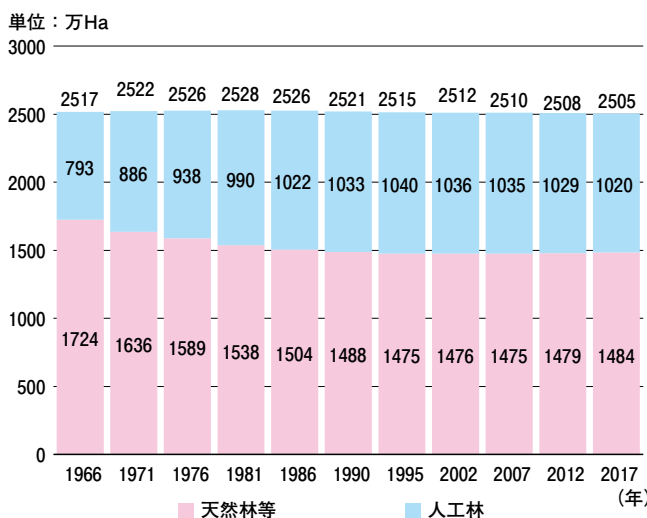
森林面積の現状

日本は国土の約2/3を森林が占める森林大国である。森林は自然の力で成り立った天然林等と、木材生産を目的として人の手によって造林された人工林に大別される。2017年3月末の森林面積は2505万ヘクタールであり、1966年と比較してほとんど変わっていない。ところが、その内訳を見ると、天然林等が240万ヘクタール減少したのに対して、人工林は227万ヘクタール増加している【図表1】。

森林蓄積の推移

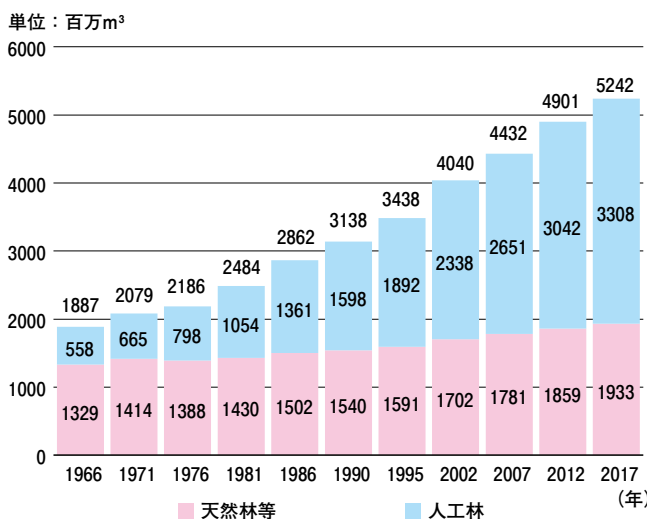
森林蓄積とは森林を構成する樹木の体積のこと、森林資源の目安となる指標である。1966年の森林蓄積は、天然林等が13億2900万立方メートルに対して、人工林が5億5800万立方メートルと、天然林等が人工林を上回っていたが、1990年に両者は逆転し、以降はその差が拡大する状況が続いている。2017年3月末の

【図表1】 森林面積の推移 (全国)



資料：林野庁HP (森林資源の現況 2017年3月31日現在) より当財団で作成

【図表2】 森林蓄積の推移 (全国)



資料：林野庁HP (森林資源の現況 2017年3月31日現在) より当財団で作成

森林蓄積は、天然林等が1966年比1.4倍の19億3300万立方メートルに対し、人工林が33億800万立方メートルと同5.9倍に大きく増加している【図表2】。

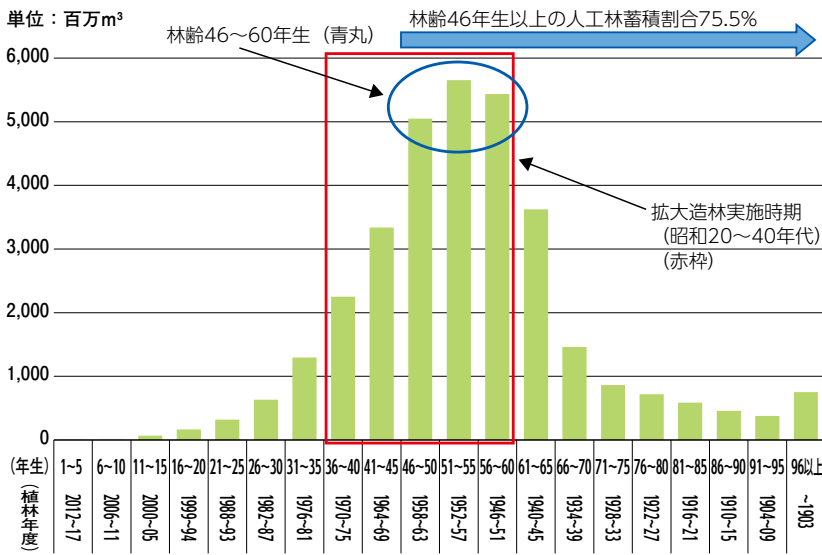
人工林の森林蓄積の増加要因

人工林の森林蓄積が増加した要因として、政府による拡大造林政策と外国産木材の輸入自由化、および林業従事者の減少が相互に関連していると

考えられる。

戦後復興により木材需要が増大したため、政府は天然林（広葉樹）を伐採した跡地にスギ、ヒノキなどの針葉樹を植え、人工林に置き換える政策を打ち出し大量の苗木が植林された。しかし、植林しても木材として利用するには40年程度かかるため、不足分を補うべく外国産木材の輸入自由化を段階的に実施した。折からの円高と相まって安価な外国産木材が大量に輸入され

【図表3】人工林の林齢別の森林蓄積推移（全国）



資料：林野庁（森林資源の現況 2017年3月31日現在）より当財団で作成

るようになり、国産木材の需要が減少、これに呼応して林業従事者が減少した（1955年約51・9万人→2015年約4・5万人）。戦後復興期にかけて植林された苗木が成長して伐採時期を迎えつつある中で【図表3赤枠部分】、林業従事者不足が人工林の森林蓄積の増大の一因となっている。2017年3月末の人工林の森林蓄積のうち、伐採に適した林齢（注1）46年生以上は2億9714万立方メートルと75・5%を占める。なかでも林齢46～60年生の森林蓄積が多い【図表3青丸部分】。

兵庫県 の 森林蓄積の現況

兵庫県の2017年3月末の森林蓄積は8519万立方メートルで10年前と比べて1・2倍に増加している。近年、アメリカや中国で木材需要が急増していることから、日本向けの輸出货量が減少し外国産木材が不足している。これを補うために国産材が期待されており、今こそ豊富な森林蓄積を木材として有効利用する必要がある。

林業活性化に向けた兵庫県の取り組み

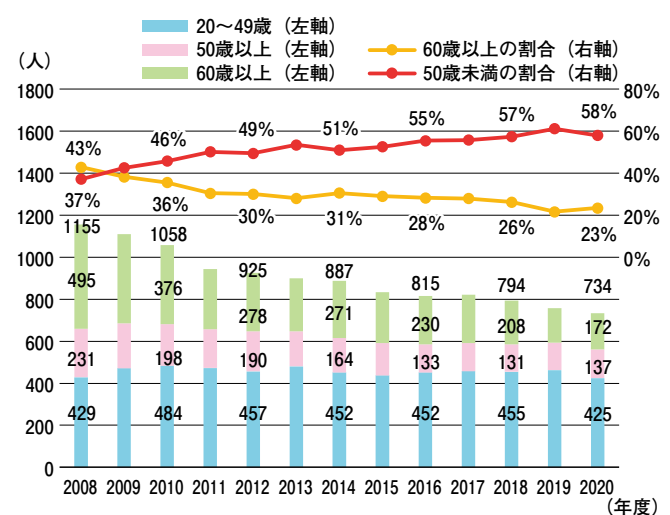
① 林業への就業希望者に対する支援

兵庫県の林業従事者は2008年度の1155人から2020年度は734人に減少している。内訳をみると60歳以上は495人から172人、その割合は43%から23%に減少しているのに対し、20～49歳は、429人から425人とわずかな減少にとどまっており、割合も37%から23%に増加している【図表4】。林業労働力確保支援センターで就業希望者を対象にした相談会や林業体験講習を実施したこと、県立森林大学校で林業関係企業等へ就職を希望する学生に就業の斡旋をしたことが功を奏したと思われる。

② 木材の利用推進

さらに、兵庫県では公共施設や利用者の多いオフィス、店舗等の民間施設に木材を使用するなど県産木材の利用を促進している。また、これまで

【図表4】林業従事者の推移（兵庫県）



資料：兵庫県（林業統計書より当財団で作成）

放置されていた間伐材を使ってバイオマス燃料として利用することにより、県産木材の利用を促している。2016年に兵庫県と朝来市は、兵庫県森林組合連合会、（公財）兵庫みどり公社、民間電力会社の3社で、未利用木材の搬出から発電まで官民協働で行う木質バイオマス発電事業を開始した。

兵庫県の林業を活性化し森林資源を有効に活用する取り組みは、地球温暖化の原因となるCO₂削減にもつながり環境面も改善する。そのために官民が一体となって林業を盛り上げていくことが重要であると考ええる。

（注1）林齢とは苗木を植林した年度を1年生と数えた時の現在の木の年齢。